

2021年度 第2回行政改革推進委員会 会議録（要旨）

【日 時】2021年8月3日（火）13:30～15:30

【場 所】須坂市役所 本庁3階 305会議室

【出席者】別紙参照

【次 第】

1 開会

2 市長あいさつ

3 自己紹介

※会議時間短縮のため省略

※委員長、副委員長の選出結果（第1回委員会にて決定）を報告

4 議事（議長：倉田委員長）

(1) 「須坂市人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略」各施策・事業の効果検証について

(2) 地方創生推進交付金・地方創生拠点整備交付金事業の効果検証について

①「まるごと博物館構想」を核とした「人」・「地域資源」で紡ぎだすまちの元気創出事業

②信州須坂健康長寿食の研究開発拠点&農家チャレンジショップ整備事業

5 その他

6 閉会

【4 議事】

(1) 「須坂市人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略」各施策・事業の効果検証について

【説明】

概要説明：中島政策推進課長

基本目標1「須坂市にしごとをつくり、安心して働けるようにする」

説明：新井産業振興部長

基本目標2「須坂市への新しい人の流れを創る」

説明：上原総務部長

基本目標 3 「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」

説明：清水教育次長

基本目標 4 「安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」

説明：滝沢まちづくり推進部長

【質疑応答】

1 基本目標 1 における「新規学卒（市内高卒）の市内企業への就職率」について

<委員>

- ・市で設定した「数値目標達成率」が「A評価」と素晴らしい結果となっているが、一方、企業側としては学生の就職希望者数が足りず十分に人員を確保できている認識がない。
- ・地元の商工会議所等を通じた採用希望人数を調査し、地元企業の認識と行政で設定した数値目標とのギャップを調査する意向はあるか。

<新井産業振興部長>

- ・企業側に採用意欲があることは存じ上げているが、企業側が希望する具体的な人数の把握は難しい部分がある。
- ・この指標項目における「新規学卒（市内高卒）の市内企業への就職率」は、主に須坂創成高校や須坂東高校であり、進学を希望する生徒も多く、進学率は約70%~80%で残りの20%程度は就職を希望されている状況である。
- ・須坂市内の高校に通う生徒の中には、近隣の長野市、中野市など市外から通学する生徒も大勢おり、須坂市内ではなく居住地で就職を希望する生徒もけっこういらっしゃると思われる。

<委員>

- ・須坂市内から通う生徒数及び市外から通う生徒数、また、それぞれの進学率及び市内就職率等の数値は算出可能であると思う。それによって、企業側の採用希望人数との隔たりが減ると思うが、具体的な数値は出しているか。

<新井産業振興部長>

- ・学校から一部数字はもらっているが、慎重に取扱わなければならないところである。
- ・須坂市内の企業は製造業中心だが、サービス業や福祉関係への就職希望も多い。
- ・就職や進学という選択肢も含め、進路におけるマッチングというのはなかなか難しい問題と考える。

2 基本目標3における「保育サービスの充実」について

<委員>

- ・まちの声を聞いてみたところ、待機児童ゼロでありがたいということであった。
- ・「働きやすい環境」という点で病児保育をさらに充実させていただきたいという声があった。資料中、病児保育実施施設数は1施設となっているが保育園か。活用状況は。

<清水教育次長>

- ・昨年度の利用延べ数は、病児保育（やすらぎ保育園）が272人、病後児保育（風の子保育園）が55人。

3 基本目標1における「わざわざ店等開設支援事業」について

<委員>

- ・どのような事業で、今後どのように展開していく予定であるか。
- ・もう少し認知度を上げていただきたいと思う。

<新井産業振興部長>

- ・本事業の補助金を活用して市内の空き店舗等を改修してお店を開いていただき、まちの賑わいを創出し地域の活性化に繋げていただく事業です。
- ・市内にはまだ空き店舗等があるため、本事業を活用して創業等していただければ、人口増にも繋がるものと考えます。
- ・広く皆さんに知っていただくよう広報すぎか等を活用して、引き続き周知に努めたい。

4 基本目標3における「子育て支援の充実」のファミリーサポートセンターについて

<委員>

- ・利用は有料か。サポート提供者はお金をもらえるか。
- ・依頼者数と提供者数にかなりの差があるが、今後の対策は。

<清水教育次長>

- ・有料。提供者は有償のボランティアという扱い。
- ・依頼者数で一番多いのは塾や児童クラブの送り迎えであり、あとは実際に預かるなど。
- ・依頼者数は増加しているが、一方で提供会員は昔から登録している人がほとんどであり、新たな提供会員の登録がほぼない。周知に努め、人数を増やしていきたい。

<委員>

- ・送り迎えで頼むケースが多いということであるが、当該事業で依頼する場合とタクシーを依頼する場合とどちらが安いか。依頼者数と提供者数のアンバランスへの対応という点で、そういった視点からも対策を考えられるのでは。

<清水教育次長>

- ・ファミリーサポートの基本料金は一時間あたり三歳未満700円、三歳以上600円。
- ・委員がおっしゃるように料金という点でタクシーを選択する方もいるかと思うが、ファミリーサポートは自宅から出先まで安心して送り届けてもらえるという安心感もあり、そういった点で依頼が多いのではないかと推測している。

(2) 地方創生推進交付金・地方創生拠点整備交付金事業の効果検証について

【説明】

概要説明：中島政策推進課長

事業1 「まるごと博物館構想」を核とした「人」・「地域資源」で紡ぎだすまちの元気創出事業（地方創生推進交付金活用事業）

説明：小林社会共創部長

事業2 信州須坂 健康長寿食の研究開発拠点&農家チャレンジショップ整備事業（地方創生拠点整備交付金活用事業）

説明：新井産業振興部長

【質疑応答】

1 事業1「まるごと博物館構想」の「地方創生として目指す将来像」における若者の転出抑制について

<委員>

- ・「『稼げる魅力あるまち』のイメージを定着させ、若者の転出抑制と市外からの還流を促し…」とある。この「稼げる」というのは「お金を」稼げるということか。

<小林社会共創部長>

- ・基本的には若者が須坂市に入ってくることを想定しており、まずは「お金」を稼げる、つまり生活できるまちにしていくことを考えている。

<委員>

- ・それ自体は正しいと思うが、計画がそこに結びついているのか疑問を感じる点はいくつかある。たとえば「健康」をうたったところで若者がそこまで見据えて須坂に住むか、文化的なものを求めて須坂に住むか。
- ・今、将来を担う人材の定住を図りたいのであれば、市外から来て市内に住み始めた人たちが、なぜ須坂市に住んでいるのかを見極めないと結果に結びつかない。
- ・須坂市に企業誘致し雇用創出したからといって必ずしも須坂市の人が働くわけではなく、また、須坂市で働く人が須坂市に住むとは限らない。人々のニーズがどこにあるのかを明確にすべき。

<小林社会共創部長>

- ・今回のまるごと博物館構想においては「シビックプライド」いわゆる市民が須坂市に誇りを持てるということが、なかでも重要な点であると考えている。須坂市は文化や市民活動がすばらしく、そういったものを表に出していきながら、若者たちにも「須坂っていいまちだな」と思ってもらいたい。
- ・退職したら須坂に帰ってきたいと思っていただけたり、長野市に勤めながらも須坂に住みたいと思っていただけるまちにしていくことが、今ここですべきことであると思っている。

2 事業1「まるごと博物館構想」における「市内で開発が予定されている観光集客施設からの人の流れを生み出すための環境整備」について

<委員>

- ・大型商業施設を訪れる人の流れを市内各所に循環させるための具体的な計画は。

<小林社会共創部長>

- ・「まるごと博物館構想」の大きな柱としてインター周辺に来る人々を市内各所にどのように引き込み、須坂の中を回っていただく仕組みを作るかということがある。
- ・博物館というと「見なくちゃいけない」となるかと思うが「まるごと」という言い方をしているのは、たとえば須坂市の文化や人、それらも繋いでいきたいと思っている。まだ構想段階ではっきりしたことは申し上げられないが、インター周辺から市内に来ていただけるような仕組み作りを考えているところ。

<委員>

- ・松本市は、松本駅から松本城まで歩ける。須坂市にインター周辺に大型商業施設ができたら、そこと須坂駅前をつなげる道なりを作っていたらと思う。

<小林社会共創部長>

- ・インフラ整備は難しいところもあるが、ぜひ取組んでいきたい。松本市と異なり須坂市は坂道が多いため、交通事業者とも連携しながら進められたらと思っている。

3 事業1「まるごと博物館構想」について

<委員>

- ・「須坂まるごと6館ガイド」に掲載されている「6館」は須坂市立博物館、笠鉾会館等であるが、市内にはこのガイドに掲載されていない施設が様々ある。それらを全部ひっくるめてやるものと思っていたが。

<委員>

- ・「須坂まるごと6館ガイド」では人形博物館や版画美術館が抜けているが、意図は。

<小林社会共創部長>

- ・このパンフレット（須坂まるごと6館ガイド）は「機能分散型総合博物館」の紹介。6つの施設を連携して考えることで総合博物館を構築している。それぞれの施設は面積も小さいため、機能分散させることで、各館が受け持つ分野やテーマに関して展示や機能を充実させていく。6館は、須坂市立博物館とその分館というイメージ。このパンフレットに入っていない施設があるが、あくまでもこのパンフレットは、須坂市立博物館の分館をつなぐものであるとご理解いただきたい。
- ・人形博物館や版画美術館は文化の美術の部門になり、博物館とは少し違うものになる。もちろん、須坂市全体のマップには落とし込んでおり一緒にやっていく。
- ・この構想では博物館だけをつなごうとは思っておらず、様々な民間の施設等や、一時的に開けていただける酒蔵など、それらをすべて含め「人」「モノ」「場所」をみんなつなげたい。須坂のいいところを光らせて、インター周辺に来た人が、一度来て終わりではなく「また来たい」と思えるような仕組みを作りたいと思っている。

<委員>

- ・須坂長野東IC周辺開発が進み、市内に人の流れを生み出すということであれば、せっかく須坂市にある文化施設、見ていただいて恥ずかしくない施設をもっとPRしていくべきではないかという質問である。それに対し、行政の方で、いわゆる美術だからという形で線引きすることは、訪れる客を線引きすることにつながるのではないか。

- ・ これまでは博物館を含めて文化事業団で運用を考えていたが、今年から博物館は文化事業団の対象から外れ、市の方でやられるということになりその点で線引きを感じていた。そこで出てきたものがこのような形であったので質問させていただいた。

<小林社会共創部長>

- ・ 誘客に関しては主に「ポケナビすざか」で案内していく。「須坂まるごと6館ガイド」は6館をつなぐ資料ということでご理解いただければと思う。
- ・ 博物館の中で美術を展示してはならないということはない。そういったことも含めて「ポケナビすざか」を利用していきたい。

4 事業2「信州須坂 健康長寿食の研究開発拠点&農家チャレンジショップ」整備事業等について

<委員>

- ・ 全体的に「健康長寿」などのネーミングが多いと感じる。そうするとその地域にはお年寄りしかいないのでは、というイメージを持ちそうな気がするがいかがか。

<浅野健康福祉部長>

- ・ イメージとして「健康長寿」「健康」というワードは、若い人は身近に感じないかもしれない。ただ、若い時から健康作りをしていかないと健康長寿にはつながらないので、若いときから健康を身近に感じてほしいという願いも込められている。
- ・ プロジェクトでは、若い人にも関心があるスムージーなど、様々な角度からの健康をイメージしている。
- ・ 第5次総合計画後期基本計画の評価においても「健康づくりの充実」についての市民意識は「満足度」「重要度」ともに高く認知されている。

<委員>

- ・ 移住という点においては「健康長寿」に力を入れていると高齢者の移住が増えるのではという感じがする。それは先ほど意見が出た「若者の転出抑制」という視点との関連で考えると、人口構造のアンバランスにつながるのでは。

<中島政策推進課長>

- ・ 委員がおっしゃられたように、健康長寿ということで須坂を選んで移住される高齢者ももしかしたらいらっしゃるかもしれないが、市の移住支援チームが支援した移住は若い方が中心である。

5 「地域に飛び出す公務員を応援する首長連合」について

<委員>

- ・「地域に飛び出す公務員を応援する首長連合」という組織があり、私も個人的に参加している。
- ・運営する首長連合は、有志の地方自治体の長で構成されていて、令和元年時点で61の首長が参加している。
- ・首長連合に加入する条件は3つあるが、須坂市は満たしていると思う。ぜひ手を挙げて宣言していただければ、公務員の中から外部とのつながりができ、人、モノの交流につながると思う。

<上原総務部長>

- ・市の職員は、当然市の仕事も公務として行うが、住んでいる地域のために何ができるか、地域の信頼を得ることも大切だと考えている。現在も多くの職員が消防団等に加入し活動している。ご提案の件についてはまた調べてみたい。

<委員>

- ・区長の立場で言うと、須坂市は市役所職員の方々なくしてはそれぞれの町の運営が成り立たないくらい一生懸命やっていただいている。ありがたいことです。

6 効果検証をより有意義なものにするために

<委員>

- ・全体像を確認したい。須坂市の総合戦略の時間軸、構造をお教えいただきたい。

<中島政策推進課長>

- ・配布した冊子「須坂みらいチャレンジ2030」は2021年度を初年度とする第六次総合計画。その計画期間に合わせた総合戦略が「須坂市人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略」である。
- ・本日は2015年度から2020年度を計画期間とした「須坂市まち・ひと・しごと創生総合戦略」5年間の実績についてご意見をいただいたところである。

<委員>

- ・全体的に、過去の事業が次の事業にどうつながっているのかわかりにくい。
- ・補完いただけるのであれば、ここまでやってきたものがどのようにアップデートされ、次の総合戦略につながっているのか、今後も新たな視点で様々な取組みを行っていくと思うが、それらにどう発展していくのかというところを補完いただければと思う。

【5 その他】

【説明】

<中島政策推進課長>

- ・本日配布した冊子「須坂みらいチャレンジ2030」。これは2021年を初年度とし、今後10年間の市のまちづくりの基本となる総合計画である。
- ・本日ご意見いただいた2015年度から2020年度を計画期間とした「須坂市人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、これまで総合計画とは別個に策定し運用してきたが、今回配布した第六次総合計画では「須坂市人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略」を基本構想の中に含め、一体的に策定している。
- ・イメージとすると冊子7pに「総合計画の体系及び進捗評価の工程表」で体系を示しているように、総合計画は10年間の基本構想があり、同列で「須坂市人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略」を位置づけしている。総合戦略は5年ごとに見直しを行う。

※総合戦略の概要について説明（冊子31p）

- ・先ほどのご意見にもあったが、総合戦略の4つの柱（重点戦略）については基本的に第1期の4本柱を継承している。

※重点戦略と総合計画における各施策との対応表について説明（冊子155p）

【質疑応答】

1 本日の議事における効果検証について

<委員>

- ・「事業等の効果を検証し、新たな計画をつくる」というステップの間であればこの議事は理解できたが、次の計画がすでにできあがっているので、今日の議事でどのように効果検証したらよいかのわかりにくかった。
- ・今回は効果検証したものを確認するというイメージでよろしいか。

<中島政策推進課長>

- ・総合戦略の4つの柱である重点戦略にそれぞれ関連の施策を紐づけており、その施策の方向性に応じて事業を進めていくが、第一期の事業を継続していくものについては本日の意見を参考にさせていただき、新たな提言については施策を進めていく中で取り入れていきたい。

2 目標と評価について

<委員>

- ・最終的に評価する数値目標、すなわちそれが達成できれば須坂市としてこうなるというものがあり、それを達成するために4つの重点戦略を柱に目標をもって活動していく形であると思っていた。しかしそうではなく、4つの重点戦略を完結するような進め方になっており、言葉で表現された4つの重点戦略を実現するために各施策をK P Iで評価して完結する形となっている。そのため、4つの重点戦略が達成したら最終目標がどう達成できるのか、評価するのが難しいと感じる。

<中島政策推進課長>

- ・何もしなければ須坂市の人口は将来何人になるという国の推計が出ているが、人口ビジョンの最終目標4万6,800人(2030年)は、それよりも多い数値を出している。そのギャップを埋めなければならないというところで、その4つの柱に取り組んでいく。

<委員>

- ・ではこれ(人口ビジョンの最終目標4万6,800人(2030年))が須坂市としての人口目標で、それを達成するためにやっているという理解でよいか。

<中島政策推進課長>

- ・そこに向けた目標で活動していくが、それがうまくいっているのかを計るのがK P I。

<委員>

- ・人口が須坂市として一番プライオリティが高い目標ということか。

<中島政策推進課長>

- ・はい。重要な目標のひとつ。

<委員>

- ・そういうことであれば、それを市民の方に周知するということになるが、冒頭の三木市長の話においては財政の話がされており、人口の話はなかった。目指す目標が一致しているのか疑問に感じてしまう。そのあたりの表現の仕方を注意された方がよいと思う。